

# 森林再生

森林再生への展望（ワークショップ）

日時：平成24年11月18日（日） 13:00～15:00

講師：木村 光伸（名古屋学院大学リハビリテーション学部長、教授）

## 概況



これまでの講義で様々な視点から森林を見てきたが、森林そのものは1つである。

受講者にはこれまでの個人総括を記入してもらった。

- ・結局、何がわかったのだろうか
- ・あなたと森の関係は学習前と比べて近くなっただろうか
- ・森はどのように多様なのだろうか
- ・その森にあなたはどのように近づいていくのだろうか

遊歩施設を歩き、森林のあり方について話し合った。大きな木は折れた際には倒れるのも早いなど、樹木に関する知識も森林整備において重要である。また、生き物の森として整備するならば、ヒトの視点ではなく、リスやムササビの視点で考えることも必要である。

遊歩施設のような場所を整備する際の方向性として、多くの生きものが生活できる場所を意識する「生態的管理」、見た目の美しさを重視して整備する「景観管理」が挙げられる。この2つは対立しやすく、森林整備を行う際には、森林の目的（自然林、公園など）を明確にする必要がある。

### グループワーク(森林再生への道筋)

1. 海上の森に存在する多様な自然を再生するとはどういうことか
  2. どのようなプラン(あなた方の構想する森のイメージ)とはどういうものか
  3. そのために、どういう人たちが、どのような計画で行動すればよいのか
- 受講者は2つのグループに分かれ、それぞれ意見をまとめて発表した。

### A チーム

#### 「親水広場」

現在の海上の森は、遊歩道で森の外側を歩いて見ることはできない。そこで、篠田砂防池から海上砂防池にかけての比較的傾斜が緩やかな地域を、人が中に入って歩き回ることができる明るい竹林や雑木林として整備し、ササユリなどの植物が生育できる環境をつくる。また、四ツ沢付近に小水力発電機を設置し、街灯の電力源として、沿道も歩きやすいよう整備する。

### B チーム

#### 人工林と自然林のモデル林づくり

海上の森には人工林、二次林など様々な種類の森林がある。それを生かして、人工林や自然林、里山の見本林を作る。それらの森の整備体験を行い、若い世代や普段森に係らない人にも森林の良さを知ってもらう場とする。